

取組名	対馬国有林の利活用方法等の検討について（仮称）	
署等名	長崎森林管理署	
取組を行う背景・経緯	対馬国有林の各地域（龍良山・有明山風景林・白岳・御岳）の林内や歩道には枯損木等が多いため、事故を防止し入山者の安全を確保するため、関係地方団体や自然保護団体との連携の下、枯損木の伐採や歩道の整備等と併せ、入山に関する一定のルール化等を検討する。	
実施した取組の内容、成果等	21 年 7 月 第 1 回検討会（対馬市役所） 21 年 12 月 第 2 回検討会（対馬交流センター）	
取組体制	部外の検討委員が参加していることから、署長以下、対馬在住職員と署内関係職員が連携して実施中。	
自己評価	<p>保護林やレクの森等の利活用方法等について一定のルール化を図るべく、現状と課題等について検討した。地元観光を推進する検討委員と、自然保護関係の検討委員との相違（観光客を誘致する一方で観光客の安全確保等については消極的なため、歩道の借地についても同様）があるため、引き続き検討を深化する必要がある。</p> <p>また、龍良山林木遺伝資源保存林については、歩道の変更（迂回路）等により対応していく考えであるが、今後とも、委員の理解が得られるよう、自然保護関係者及び観光推進派との調整を図ってく必要がある。</p>	
今後の展望	韓国人等を含めた入山者が多いことから、枯損木の伐採や歩道の整備等と併せ、入山に関する一定のルール化等について検討を深化し、国民の森林としての役割発揮や入山者の安全確保に努める。	
新聞等掲載状況		
2009/07/06 プレスリリース		
2009/11/30 プレスリリース		
2009/09/02 林業新聞		